

# 平成29年度広島市立広島特別支援学校第1回学校協力者会議概要

1 日 時 平成29年6月22日（木）（10:00～11:30）

2 場 所 広島市立広島特別支援学校 校長室

## 3 内 容

- (1) 学校長挨拶
- (2) 配付資料確認
- (3) 運営規程説明
- (4) 委員・学校事務局員紹介
- (5) 委員長・副委員長の選出 所属部会の決定、部会長の選出
  - ア 委員長 江上 正明氏（元広島市立山田小学校長）
  - イ 副委員長 林 武広氏（比治山大学現代文化学部子ども発達教育学科教授）
- (6) 委員長挨拶
- (7) 協議

ア 学校の現状についての説明

### ① 学校経営方針

- ・ 自立と社会参加を目指し、児童生徒が「わかる」「できる」「かかわりあう」を大切にした日常生活における指導の授業づくりを行い、主体的な活動を促していく。
- ・ 各学部で課題を設定し、学部会や学部研修会を活用して、発達課題・障害特性等の理解や指導方法について研修を深め、授業改善を目指していくことで、専門性の向上を図る。
- ・ 児童生徒が見通しをもち、自ら進んで主体的に活動できるような環境づくりを行う。
- ・ 「地域に開かれた学校づくり」を目指し、学習の充実を図る。

### ② 児童生徒の状況

- ・ 小学部 124 名、中学部 105 名、高等部 285 名、合計 514 名、102 学級でスタートした。学級増に対応し、本年度9月に仮設校舎を竣工する予定（3階建12学級）である。また、高等部に特化した新しい学校の設置を検討中である。教育委員会とも連携を図りながら、環境の整備、充実に努めていく。

### ③ 進路状況について

- ・ 企業就労率が41%となり、過去最高を記録した。卒業後の進路が大切で、離職せずに仕事を続けていくことができるよう、キャリア教育の一層の充実が望まれる。

### ④ その他

- ・ 県費職員から市費職員への権限委譲が行われ、平成30年度教員採用試験で広島市に特別支援学校教諭の採用枠が新設されることになった。
- ・ 余暇活動の充実に向け、生徒指導部に文化・スポーツ振興係を新設し、陸上競技大会等に出場した。

イ 意見交換、提言等

- ・ 市立の幼稚園、小・中・高等学校では、発達障害のある幼児児童生徒が増加している。サポートセンターの活用を促し、特別支援学校のセンター的機能を発揮して、支援体制の充実を図ってほしい。
- ・ 職場で働く教職員の疲労が心配である。職員の負担軽減を図るため、業務改善を行っていく必要がある。
- ・ 合理的な配慮を行っていくためには、学校、地域、教育委員会の三者が連携していくことが必要である。
- ・ 学校経営計画の成果指標が、手段になっている。具体的な成果指標を定めておく必要がある。
- ・ 社会参加の実現に向け、自己決定、自己選択の場面を設定し、自らの権利や要求を主張する力を身に付けていくことが大切である。アドボカシーの考え方が、学校教育目標の内容に盛り込まれていくことが望ましい。
- ・ 地域と連携する際、地域をどう活用していきたいのか、学校が主体的に提案していくことが大切である。
- ・ 宇品公民館まつりや公民館清掃では、生徒の参加を勧め、地域との交流を更に広げ、盛り上げていきたい。
- ・ 学校に全て任せるのではなく家庭と学校が連携し、協力しながら教育活動を進めていくことが大切である。
- ・ 設備の金属疲労（摩耗）により事故が発生した。今後更に安全管理の徹底、強化を図っていく必要がある。
- ・ スポーツ活動の充実に向けて、地域資源を生かし、外部人材の有効な活用についても、検討が必要である。

- (8) 委員長挨拶
- (9) 学校長挨拶